



- 進んで明るいあいさつ 20人
- みんななかよく やさしいことばを20回
- 不登校0 いじめ0 のあたたかい学校

10月21日(金)の心の参観日に大勢の参観をいただきありがとうございました。

同時に開かれました心の講演会には四十数名の参加をいただきました。せっかくですので、講師の篠田先生の思いは十分伝わりませんが、講演内容の概略をお伝えしたいと思います。

子どもとのコミュニケーション 思春期の関わり方のポイント

三井小・島田中スクールカウンセラー 篠田光臨先生

子育ての期間

出発点は子どもの誕生

到着点は10年後20年後に親から独立し社会に適応して、経済的、社会的に自立した生活を送るようになったとき。もし自立に失敗するとニートと呼ばれることに。

ニートにならないために 社会(雇用者)が求めている人(従業員)とは(米国教育開発協会)

- 学び方を知っている
- 読み書き、コンピュータ操作ができる
- 適応力がある(変化や課題に対応できる)
- 自身を管理する力がある
- 影響力がある。

子育ての中でも思春期は自立にむかう重要なターニングポイント

思春期には、まず身体の変化が始まる。しかし体は大人、心は子ども。親からの自立と親への甘えが同居というアンバランスな状態になる。

次に人間関係の変化が出てくる。価値観が変わり、親、教師より友だちが優先する。そこで友達関係の挫折体験は脅威になる。

そして、自我の発達が進み、認識力が発達し、個性をもった人間になり始める。したがって理想と現実の違いに悩んだり、大人の意見の矛盾に反発したりする。

要するに親から離れ、自立するための準備期間が思春期。自分探し、自分作り、自己実現の試行錯誤を繰り返す時期。揺れ動くこの時に、私たち大人は、見守る、支える、心のへその緒を切る準備をしなくていけない。そのためには見守りつつ関与する姿勢が必要になる。

しっかり見守りつつ、関与するためには コミュニケーションが必要

コミュニケーションとは、言葉や手足などを使って主張や気持ちを人と人との間で伝えあうことであると同時に、双方向で影響を与えあうものでもある。ただ一方的に伝えることがコミュニケーションではない。

私たちがしなくてはいけないコミュニケーションとは、大人が子どもに受け取りやすいようにするメッセージを出すことが大切になる。そのためには、子どもの思いをしっかりとくみ取り、誉めながら、自信を沸き立たせるようにしていく必要がある。

関わり方のポイント

みんなに認められたい。この欲求は、だれにでもある。

まずこの欲求の保証する自己肯定感を与える言葉がけが大切になる。

次に自立を始めた子どもには、自分の世界を築きそれを侵されたくない気持ちが沸くので、プライバシーを意識した距離感が必要である。

最後に第三者的な感覚を持つ他者とよく相談をしながら、子どもを見つめることが大切だ。直接正面から見るばかりでなく、斜めから見る目線も必要である。

みんなでつながろう

一人で子育てに悩み不安を持つと、原因追及にとどまらず、責任追及までしがちになる。そうなれば、問題解決どころか、子どもの不安は増幅するばかりになる。家庭・学校の連携+スクールカウンセラーなど第三者の専門家も交えしっかり話し合うことが大切だ。

以上のようなお話しでした。

私は二つのことを感じました。

まず子育ては、一人で悩まずみんなでもに育てようという心が必要だということ。

そして、大人はしっかり子どもを見つめ、大人が伝えたいことは、自信をもって子どもに誠実に伝えるということ。

親の思いは、きっと子どもたちには伝わっています。どこで使うか、どのように使われているかは、子どもが決めます。いつ教えたことがどこで表れるかを楽しみに子育てしてあげたいです。

平成23年度前期学校評価アンケートの考察と後期の展望

(速報)

1 基本的な生活習慣の育成

昨年度まで保護者の皆様には「わが家のやくそくはつくりましたか」という質問項目で評価を行い、2年間でかなりの成果をあげました。

そこで本年度は「わが家のやくそくを守っている」ということで評価を行いました。肯定的な評価は70%であった上に、できていないと感じる方も20%ありました。教職員の評価でも、家庭生活のルールづくりに児童や家庭に働きかけをしているという割合は60%に満たない結果となりました。さらに児童評価でも肯定的な評価は70%で、十分とは言えません。

「やくそく」づくりの定着、「やくそく」の習慣化は、これからの生活する上で欠かせません。まず職員から地道な啓発を続けていこうと考えていますが、保護者の皆様にもご協力いただきたいと思います。

早寝早起き、あいさつについては保護者、教職員評価ともに80%を超え、定着しています。ただ、児童評価ではあいさつ、やさしいことばについてできていないと感じるものが20%以上います。これは、しなくてはならないと自覚しているとも考えられます。ですから児童を励まし続けていきたいと思っています。

2 学力の向上

学習や読書の時間を決めているという評価項目では、保護者、児童とも肯定意見は50%強で、定着とはほど遠い結果で、昨年後期と比べてもほとんど変化がありません。判断力、思考力の育成に読書は欠かせません。また、中学校では必須の学習習慣の定着のためにも、小学校での学習時間の確保は欠かせません。

本校では家庭で行う学習や読書の課題を定期的に出して、習慣化を図っていくように一層努力していきます。家庭で学習や読書が習慣づくように、指導も加えたいと思っています。

家庭でも「読書する姿を親が見せる」「子どもとともに学ぶ」等、一層協力をいただけるようお願いいたします。

授業を楽しんでいるという評価では、保護者、児童ともに22年度後期に比べ、5ポイント向上しています。職員も分かりやすい授業づくりに努めている姿がうかがえます。一層努力を重ねたいと思っています。

また、前期職員が真剣に取り組んだ「分かった」「できた」と喜びと成長が確かめられる授業づくりを、後期も引き続き学力向上推進リーダーのもとに取り組んでいきたいと考えています。この授業についても、お知らせする機会をつくってまいります。

3 安心・安全な学校

学校の安全環境については保護者から高い評価をいただきました。保護者の協力の花壇整備等の賜物でもあります。このよき伝統は大切にしていきたいと思っています。

保護者評価項目であった「職員はいじめや非行をなくすために個々の子に配慮したり指導をしたりしている」は22年度後期と変わらず、「分からない」という回答が20%で、学校から情報を発信してきたつもりですが、十分に伝わっていないことが分かりました。校内の様子をもっと知らせるように工夫していきたいと思っています。

23年度前期、不登校やいじめの認知件数は、「0」で、昨年度より改善が進んでいます。一層個に応じた指導の充実を図り、この「0」を続けたいと思っています。またスクールカウンセラーや市の教育相談の利用についても情報を伝えて、気軽に相談できる学校づくりを進めていきます。

児童は、安全に気をつけて右側歩行をしていると評価していますが、前期はけがが多かったことも事実です。落ち着いて学習や生活ができるように指導を重ねて、後期はけがを減らしていきたいと思っています。

ご協力いただきましたアンケート回収率が80%を超え、大変ありがたく思っています。皆様方の真摯な思いが伝わってまいりました。私どもは身を引き締めて、後期もがんばっていきたく思いますので、ご協力よろしくお願いいたします。

なお、詳しいデータや分析については、後日配付させていただきますので、ご覧になってください。